

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500147		
法人名	株式会社 福伸		
事業所名	グループホーム ときわの里 すずらの家		
所在地	岩手県奥州市水沢区中田町4番19号		
自己評価作成日	平成26年9月26日	評価結果市町村受理日	平成27年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigvosvoCd=0391500147-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様が常に明るい笑顔で話ができ、それを傾聴し共有する日々をチーム一丸となりサービス提供しています。 ・介護技術やサービスマナーの向上を目指し、研修会などには積極的に参加し実践に続けています。 ・地域の社会資源を活用するため、区長や民生委員に情報提供を頂き施設運営を行っています。 ・安全管理の徹底に努めている。(緊急・災害時の連絡体制、避難訓練実施)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「家庭的な雰囲気なユニット」「個性的な雰囲気を持つ方が多いユニット」と、ユニット毎の特徴を活かしたケアに、職員は努めている。職員同士は仲が良く、非常に雰囲気も明るい。利用者の方々も明るく、沢山の笑顔が見られている。</p> <p>2ユニットで、それぞれ別々の新聞を取っており、その新聞を交換して読むために、利用者がリハビリを兼ねて別ユニットに新聞を取りに行くことを行っており、日常生活の中の一部に、機能訓練的な要素も取り込まれている。</p> <p>月1回のユニット会議には、別ユニットの職員1名がオブザーバーで参加しており、ユニット間での情報共有も徹底している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で創った理念をホール入口に表示し全職員がその理念を共有し、利用者の方々に寄り添い、笑顔でいきいきと生活できるよう努めている。	利用者のペースを大切に、ありのままに、明るい笑顔で関わり合いをもつことを念頭にケアにあたっている。理念は、誰もが見えるところに掲示し、常に意識をしているほか、利用者や来客へも見えるように掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣を散歩しながら地域の方々と挨拶をし交流を深めている。また、施設の行事に招いたり町内会の松祭りや催し物に参加し交流を図るよう努めている。	事業所主催の焼き肉パーティに近隣の方等も招いて楽しく野外での活動をする他、地域の夏祭りへ出向き、盆踊りを見学したりするほか、原中地区の芋の子会への参加など、地域へ出向くことも多い。町内会へ加入もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩をはじめ、近所のスーパーなどに買い物に行ったり、ドライブで外食したりして利用者を知って頂き、生活の延長であることを理解していただけるよう努力している。幼稚園児との世代間交流も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で推進委員会を開催し、行政・地域・家族代表者に参加して頂き、施設報告や入所状況、提案・発言をいただいている。そこでの内容を職員に回覧し、サービス提供に活かせるよう努力している。	運営推進会議は、偶数月に開催している。行政や地域の方、民生委員、法人(事業所)代表等の参加により開催している。報告等が会議でなされている。今後は12月にクリスマス忘年会開催と併せて実施を予定しており、様々な意見交換の場になり得ることと思われる。またテーマに沿ったゲスト(消防、警察等)スピーカーを呼び、運営推進会議の内容の充実を図っていくことも視野に入れて頂きたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の方に推進委員会に参加して頂き、ホームでの状況など、いろいろ相談したり。連絡をとったりしている。	運営推進会議時に市から情報提供等がなされる。事業所からの相談事にも対応してくれたり、円滑な関わりが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	サービス向上委員会の部会で身体拘束・虐待防止の学習をしたり、職員会議なおでも気付いたことを話し合い、拘束のないケアを目指している。	法人内で3つの部会があり、その1つに「ケアサービス向上委員会」があり、委員を中心に勉強会や研修会を定期的に行い、理解を深めている。また、外部の研修会等へも参加し、伝達も行っている。抑制のない生活を目指した取り組みがなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	サービス向上委員会で内部研修を開催し利用者への言葉、態度に気をつけるよう全体で取り組んでいる。外出や入浴時など身体の変化を見逃さないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加した職員が、向上委員会で報告し、学習会をしながら理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分説明を行い、同意を得られている。また、本人・家族からの不安や疑問点をたずね、説明し理解、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に会話から要望や感想などを聞き改善できるよう努めている。また市の介護相談員も訪問し、そこでの聞き取りをケアに反映できるよう努力している。	利用者からは日常の会話の中から、「やりたいこと」「行きたいところ」を聞き出した際には出来る限り、実行できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議での話し合いや毎日の申し送りで見つけたことを提案してもらい反映させている。	月1回のユニット会議(ユニット毎に行われる会議には、別ユニットの職員1名がオブザーバーで参加している。)で、職員の意見や提案を聞いており、出来る限り反映するようにしている。利用者と共に外出した際、入場料等がかかる場合の職員負担の軽減等について現在諮っているところである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	採用時に労働条件通知書及び辞令書等で勤務状況の把握をはかり、有給休暇等の労働体勢を整え、職場環境条件の整備に務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内が届いた時には、随時研修に参加してもらい、スキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修に参加し、それを職員で共有しサービスの質の向上に努めている。また、他事業所との交換研修などで交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人・家族から不安や要望に耳を傾け、今までの生活スタイルを変えることなく安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の要望に十分耳を傾け、どのように支援したらよいか話し合い提案しながらサービス提供できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に訪問し、生活環境の確認、情報収集、必要としている支援を話し合い、サービス提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者が、出来る事、したい事に目線を合せ、それぞれに合った声かけ対応をしている。また会話から生活の知恵など聞くことができ、支え合う関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の近況を手紙、行事等の写真で報告し、家族との関わりを絶やさないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人、友人等の面会があり、落ち着いて話ができるよう配慮している。	家族や親せきのほか、友人・知人も訪ねてきたりしている。手作りのおもてなし用のミニテーブルを居室に用意し、訪問客がそれぞれの居室でゆっくり過ごせるよう配慮をしている。毎月、外泊している利用者もあり、馴染の関係継続支援もなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、レクやホール内での交流を図っている。また、場合によっては職員と共に1人ひとりが孤立しないよう会話をし支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先、転居先などの様子を聞いたり、相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の会話や行動から思いや暮らしの意向を把握し、希望に沿った支援ができるよう努めている。	思いや意向の把握が難しい方には、生活歴などから、それぞれの思い等を理解するよう努めている。帰りたい等の訴えにも真摯に向き合い、家族にも協力して貰うなどして、気持ちが穏やかになってきた。手紙、電話の希望にも応えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人から聞いたりして生活歴や馴染みのある暮らし方など把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の行動や状況を記録し、コミュニケーションを取りながら現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議でケース検討を行い、サービス担当者会議の場で意見を反映させ、より良く生活できるようニーズの把握に努めている。	3ヶ月毎にプランの更新や見直しを行っている。利用者個別毎に課題をしっかりと立て、その評価(達成度確認)をモニタリングし、適切に実行されている。医師からの助言等が盛り込まれることもあり、本人本位の介護計画をチームで取り組んでいる様子が窺える。又、入居間もない方には生活リズムを掴むために、24時間シートを2週間位付けて、生活のスタイルの把握に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録を活用し、毎日の申し送り等で情報を共有し、実践、計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に変化があればその都度、要望に応じて柔軟に支援できるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・幼稚園等の訪問、行事などに楽しみを持って参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	基本的には受診は家族対応だが、都合がつかない場合は、シルバーさんを利用して柔軟な体制を取っている。歯科往診もあり必要な治療を受けられている。	利用者は、以前からのかかりつけ医に通院されている方が殆どであるが、事業所の協力医に替わった利用者もいる。日常の様子(食事量、排泄、バイタル(特にいつもと様子が違うときなど))を記したものを、受診時に家族へ渡し、伝えて貰い適切な医療が受けられるよう支援している。また、医師からの情報は口頭で教えて貰っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調、精神状態を当施設の看護師に報告相談し、個々の利用者が適切な受診・看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時の情報を提供し、現状を報告し連携に務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針の共有を支援は現段階では難しく病院等への紹介で対応している。	自己評価にもあるように、現段階での重度化対応や終末期の対応は難しい状況となっているが、ケアサービス向上委員会を中心に、外部のターミナルケア研修会へ参加し、伝達研修を行うなど学びを深めるための取り組みは行われている。また、自分たちが出来ること、出来ないことを家族等へは初期の段階で説明をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルがあり、看護師による応急手当などの研修会を行っている。救命講習を受けたことがない職員もいるので、課題としたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を消防立会いで実施したり昼夜間を想定し施設内で行っている。区長・民生委員を通して災害時の協力をお願いしている。	年2回(5月、10月)避難訓練を実施しており、通報訓練も行った。消防署からの指導で、実際に夜間(暗くなってから)の避難訓練の実施の必要性や、全利用者の避難訓練の実施の重要性なども話された。食料品の備蓄、備品等の準備についても、前回の目標達成計画の取り組み事項に掲げ、取り組みを行った。	消防署からの指導にもあったように、夜間の訓練実施や、運営推進会議時に地域の方々からの協力も呼び掛けるなどして事業所だけで完結してしまう訓練とならないよう、取り組みを進めて行くことを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重しプライドを傷つけないよう言葉に気をつけている。特に排泄介助時には注意している。	利用者一人ひとりの羞恥心に対して特に配慮をしている。名前の呼び方も、色々検討を重ね、現在は「～さん」付けで呼んでいる。(苗字がいいか名前がいいかは個々により違っている。)また部屋に名札(表札)を付けない配慮も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を傾聴し、自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで生活できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの服は自分で選び、気候等に配慮し手助けしている。訪問理容を利用し身だしなみを整えている。馴染みの店を家族と共に利用している人もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や季節に応じた料理を提供している。また、野菜の皮むきや下膳、食器拭き等の手伝いをしてもらっている。	調理専門の職員がおり、昼食・夕食はその職員が作っているが、食材の買い出しや、下ごしらえ等へは、利用者も関わり、柿の皮むき、ずんだの豆はじき、もやしの髭取りなど、生活の中にある「食」を大切にしている。地元の昔ながらの料理「奥州はっ」とや、季節の料理、芋の子汁、栗ごはんなどが出されている。社長が畑で野菜を栽培しており、様々な野菜を差し入れてくれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分量を記録し無理なく摂取できるよう支援し、健康管理に役立てている。調理を工夫し、食べやすいように提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後に声かけし口腔ケアを行っている。必要に応じて介助を行い磨き残しや義歯のチェックをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄記録をつけ、排泄パターンを把握し、さりげなく声がけをトイレ誘導している。排泄パターンの把握で自立支援を行っている。	排泄の自立支援を目標にケアに当たっている。ユニットによって、利用者の自立度は違っているが、現状の状態を著しく下げることのないよう、利用者個々の状態把握に努め対応している。夜間は声掛けを行い、誘導する方もいるが、無理強いはしていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取に気をつけ、主治医処方の下剤で服薬コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタルチェックを行い、体調等を伺い無理強せず利用者の希望を大切にしている。	週に2回の入浴となるように支援しているが、夏場は、週に3回入浴する方もいる。以前は、入浴を拒否しがちな方もいたが、その方も関わり方により現在は、拒否もなくなり、適切に清潔保持が行われている。時期により「菖蒲湯」や「ゆず湯」も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせ、自由に休息、臥床を支援している。室内も照明や室温を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイルに綴り職員全員が内容を把握するよう努めている。また、薬の変更時には日誌、連絡ノートに記入し誤薬、服薬忘れのないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族の話から、できることをレクや行事等に取り入れ、楽しんでもらえるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の行事等でドライブや外出に出かけたり、転記の良い日には近隣の公園を散歩したり、買い物に行ったりしている。	日常的に買い物に行ったり、散歩や近隣の公園にも行き、花見をしたりしている。近くに工事現場があり、その工事の進捗状況を見ることが日課の方もいた。ドライブなど行事的な外出時には、家族の参加や事務局員も同行し楽しんでいる。様々なかたちで、外出を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かっているお金は事務所で保管しているが、外出時などには嗜好品や必要な物を買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話などでやり取りしている。制限はせず、いつでも連絡できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖房、エアコン、天窓、天気の良い日に外気を入れるなどして室内管理をしている。季節の花や行事の写真等をはり、ホール内に展示している。	利用者の方々が、居心地のいい共用空間にするために、職員が心がけていることは、食事の時のテーブルの配置である。また、相撲のポスターを貼ったり、絵を飾るなども行っている。広い共用空間にはソファも点在しており、思い思いの場所で、それらに横たわり昼寝やテレビを観たりしている。天窓もあり、採光もよく明るい室内となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファを置いてあるので利用者同士、重い思いの時間を過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意向を大事にし馴染みの物を持ち込み、それぞれ居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室に、お位牌や遺影など置いている方や、テレビ、お化粧道具、お人形、写真など様々である。寝具もタオルケット等は持ってきて頂いているが、好みで、丹前をかけて休んでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりを設置しより安全に歩行できるよう配慮している。トイレは表示、浴室はのれんをかけて場所が判るようにし、見守り支援している。		